

令和6年 度 自 己 評 価 表

鳥取県立鳥取商業高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	保護者・地域と連携し、望ましい職業観・勤労観を身につけ、知・徳・体のバランスのとれた次代を担う若者を育てる	今年度の 重点目標	1．鳥商生としての自覚と誇りを持ち、物事を批判的に考察し、主体的に行動できる力を身につける 2．望ましい職業観・勤労観を身につけ、進路実現に向けて努力する 3．健康に留意し、学力向上と部活動等に励む 4．ビジネス社会及びグローバル社会に必要な力を身につける
-------------------	---	--------------	---

年 度 当 初					評 価 結 果 (9) 月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1. 鳥商生としての自覚と誇りを持ち、物事を批判的に考察し、何事にも主体的・積極的に取り組み、行動できる人材に育っている	①高い規範意識・人権意識 ②主体的に考え、行動する力 ③安心、充実の学校生活	①（保護者）生徒に挨拶やルール、マナー等、社会に通用する意識や態度が育っている 8 3 % ①正しい服装、頭髪・自ら挨拶をしている 9 6 % ①②学校行事・生徒会活動・部活動に主体的に取り組み、集団に貢献している 9 5 % ②地域との連携件数 6 件 ③安心して学校生活を送っている 9 7 %	①②規範意識が高く、自らが考え、場面に応じた行動ができる（生徒アンケート 9 5 %以上） ②地域の産業経済界と連携した活動ができている（連携件数 8 件） ③安心して学校生活をおくれている（生徒アンケート 9 5 %以上）	①生徒による改訂された生徒会自治会規則の検証 ②積極的な地域や企業との交流 ③ユニバーサルデザインの視点を取り入れた環境整備	①端正な身だしなみや挨拶の実行、時間や期限を守ることができていない生徒が一定数いる。 ②地域と連携した活動に取組んでいる（連携件数 6 件） ③ユニバーサルデザインについての研修を 4 月に実施 ③安心して学校生活をおくれている（生徒アンケート 9 9 %）	B	①社会で実感できる機会が少ないので校内での指導を推進する ①後期生徒会にて規則の検証や改訂を行う ②地域と連携した活動により積極的に取り組む
2. 望ましい職業観・勤労観を身につけ、進路実現を通じて地域経済の活性化に資する人材に育っている	①体験的活動を通じた職業観、勤労観の醸成 ②体系的・計画的なキャリア教育	①②（3 年）就職希望者内定率 1 0 0 % 進学希望者内定率 1 0 0 % ②（3 年）進路指導は、生徒一人ひとりの目標実現に役立つように行われていると思う 9 4 %	①②1，2 年：適切な進路目標を段階的に設定できる（8 0 %以上） ①②3年：就職・進学ともに全ての生徒が進路を実現できる	①②系統だてられた体験的活動や進路学習内容の実施及び改善（フィールドスタディ、進路LHR、進路調べ等） ②進路実現の為に必要な学力向上のための方策の実施（補習、校外模試、公務員セミナー等）	①②フィールドスタディや研修旅行の準備が効果的にすすめられた ②補習や模試が昨年より効果的に実施できた ②生徒が社会動向や社会問題について考える機会が乏しい	C	②社会動向や社会課題の解決を考える探究的な学習を効果的に実施する方法について検討する
3. 自己の心身を大切に、学力向上と部活動等に励むことができる人材に育っている	①基本的生活習慣の確立 ②主体的な授業や部活動への取り組み	①朝食を毎日食べている 9 2 . 7 % ①睡眠が足りていない 6 4 % ②自宅学習調査 1 年 5 1 分 2 年 4 8 分 3 年 3 8 分 ②3 年全商検定 1 級未取得者 1 0 . 3 % ②部活動が両立できている（前期） 6 6 %	①適切な自己管理（十分な睡眠と毎日朝食摂取）（生徒アンケート 8 0 %以上） ②家庭学習が習慣化している（1 日 5 0 分） ②3 年全商検定 1 級未取得者 0 人 ②学業と部活動の両立ができる（生徒アンケート 7 0 %以上）	①保健委員を中心に基本的生活習慣確立への活動の実施 ②家庭学習に主体的に取り組める方策の実施（タブレット端末利用による課題配信、グレード別検定補習等） ②生徒主体の部活動の実践	①9 5 %の生徒が朝食を食べているが、6 3 %の生徒が睡眠が十分でない（生徒アンケート） ①保健委員の活動の場はあるが、主体的な活動の企画には至らなかった ②各教科で課題配信や補習を行っているが平素の学習の定着までには至っていない ②部活動が両立できている（生徒アンケート 7 1 %）	B	①テーマを設定して保健委員の主体的活動を促し、校内展示や鳥商デパート等で発表の場を設ける ②教科主任会や学年会を活用して、情報共有や効果的な課題指導や補習について検討・実施する
4. 地域や世界に関心をもち、持続可能で豊かな社会を想像・創造できる人材に育っている	①修得した知識や技術のビジネス実践力へ活用 ②グローバル感覚、自己表現力、語学力の養成	①（鳥商デパート来客数）約 6 5 0 0 人 ①（鳥商デパートお客様意見）「応対がよかった、笑顔が良かった、接客がよかった」 ②国際交流参加延べ人数 2 2 2 人 ②全商英検合格者数 1 級 1 1 人 2 級 4 7 人 ②自分の考えをなかなか効果的に表現できない	①第 3 1 回鳥商デパートを生徒が主体的に企画・運営できる（来場者数 7 0 0 0 人以上、お客様満足度 9 0 %以上） ②自分の考えを効果的に表現（日本語、英語）できる（ニュースレポート等で自分の意見を書いている生徒が 7 0 %以上、全商英検 1 級合格者が 1 0 人以上） ②国際交流参加者が 5 0 %以上	①商業科目との関連性を確認しながら、鳥商デパートを準備 ②表現力養成の為のインプットと発信力の強化 ②図書やオンラインツール、鳥商手帳を活用して自分の考えをまとめる ②国際交流の機会を積極的に作り、生徒が参加しやすい環境とする	①鳥商デパートを商業科目と関連づけた取り組みを模索している ②多くの生徒が国際交流にかかわった ②学校単独でバーモント派遣を実施 ②表現力や発信力の養成が教科まかせになってしまっている	C	①鳥商デパートと商業科目を関連付けた取り組みを実施する ②学年・分掌と教科の取組連携の推進（国語科以外でもニュースレポート活用、スピーチ月間の実施方法の改善）
5. 業務改善の取組	①長時間勤務者の削減 ②校務分掌、任務分担の見直し	①②時間外業務時間の合計が 3 6 0 時間以上の勤務者 1 0 名（3 0 0 時間以上の勤務者 5 名）	①年間の時間外業務時間の合計が 3 6 0 時間を超える勤務者をなくす。 ②適切な校務分掌、任務分担となっている	①部活動方針の徹底と部活動の月別計画、実績表の活用 ①②研修会や学年会での意見の共有を活用した業務量の適正化	①時間外業務時間の合計が 1 8 0 時間（年間 3 6 0 時間の半期分）を超える勤務者が 9 名	C	①行事や大会引率時の勤務時間の割り振り変更を徹底する ②随時任務分担等を見直す

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：変化の兆し D：まだ不十分 E：目標・方策の見直し

〔100%〕

〔80%程度〕

〔60%程度〕

〔40%程度〕

〔30%以下〕